支部だより

CPIJ Branch Letter

中部支部

豊橋「水上ビル」懇話

~ その成り立ちと次の10年にむけて~

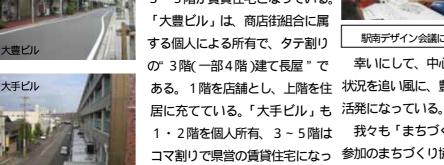
「水上ビル」 の象徴"といえるこのビルは、高度経済成長期の昭和30年代 ティックなどの店舗として借りようという個性的なオーナーも 後半、文字通り暗渠化された農業用水 (「牟呂用水」) の上に建 多く、古くからの商店と混然とした状況は、現在も独特の個性 てられた3~5階建ての鉄筋コンクリート造で、水路に沿って を放っている。とはいえ、建築から45年が経ち、次の10年 長さ800mに及ぶ「板状建築物群」である。

わる鉄道会社などの出資により、水路上に住居付店舗を建設し て行きたいと思う。

がとられた。



実際には、豊橋ビル、「大豊ビル、 げる可能性はある。 「大手ビル」の3つ異なるビル群 からなる。「豊橋ビル」は、養鰻組 合を母体とする株式会社の所有で、 1・2階が飲食店舗及び事務所、 3~5階が賃貸住宅となっている。







豊橋は、食飴・駄菓子の産地であり、鉄道交通の要衝であっ たことから、菓子問屋を中心に花火、玩具、靴、雑貨といった ebone(セボネ)」は、昨年で6回目の開催となった。 卸問屋が軒を連ね、東三河一円、遠州・南信地区など沿線から 豊橋産品を求める"担ぎ屋"のおばさんで大変にぎわった。

ある。建物とほぼ同じ齢を重ね、十数年の東京暮らしから6年 に多くの人が興味を持ち、考えてくれることがうれしい。この 程前に帰郷し、再び「水上ビルの住人」となった。両親は、依 場所が、この先も豊橋のまちに寄与するものであり続けること 然「水上ビル」で商店を営んでいるが、中心市街地の衰退の波 を願っている。 はここにも押し寄せ、往時のにぎわいも消えて久しい。"周回遅 れのフロントランナー"と揶揄される懐かしい商店街のたたず

、豊橋市民なら誰もが知っている"まちなか まいは、それでも、安い賃料が奏功して、1階を若者向けのブ のうちには居住 (所有)者の多くが世代交代をむかえ、今後の 戦後のいわゆる"ヤミ市 'から派生したいくつかの商店街を、 対応が迫られるが、現状では建て替えは望めないため、いずれ 市街地再開発のなかで、防災・美観の観点から整理する際、中 は用水に戻すことになる。しかし、壊すまでの10~15年余 心市街には既に十分な代替地がなかったため、やむなく、用水 の間、この"おもしろい"建物が、どうすればスラム化・陳腐 の上空を利用しようというアイデアに至った。再開発事業に関 化せず、元気に少しでも永く生き延びることができるかを考え

て、移転してもらい、換わりに土地の提供をうけるもので、"上 昭和30年代以降に建設された数多くのマンションや団地が、 モノ"のみを所有し、土地は河川管理者より借地するという形 これから次々と建て替えの時期をむかえる。その中で、新しい アイデアや価値観、新しい工法、資金の調達手法や法整備の動 「水上ビル」というのは愛称で、 きが起こってくるのだと思う。" 元気に待つこと "が選択肢を拡





駅南デザイン会議によるワークショップ:「まちづくり座談会」の様子

幸いにして、中心市街地への関心が高まってきている昨今の ある。1階を店舗とし、上階を住 状況を追い風に、豊橋駅周辺でも再開発を含めた様々な試みが

我々も「まちづくり交付金」などの補助をうけて、地域住民 コマ割りで県営の賃貸住宅になっ 参加のまちづくり協議会「駅南デザイン会議」をスタートさせ た。今年度「まちづくりビジョン」をまとめる。

「水上ビル」を"まちの背骨"と捉えたアートイベント「s

商店街へは、頻繁に小・中学生が社会見学に訪れ、毎年のよ うに建築やデザインの学生が卒業制作のテーマとして、また、 僕自身は、"生粋"の「水上ビル生まれ」、「水上ビル育ち」で 大学の授業で設計課題の対象に取り上げてくれる。「水上ビル」

豊橋駅前大通南地区まちなみデザイン会議

常務理事 黒野 有一郎(建築クロノ)